

学校だより



令和2年6月1日発行
令和2年6月号
東京都立中野特別支援学校長 和田慎也
<http://www.nakano-sh.metro.tokyo.jp/>

これからの本校に求められること

段階的とはいえ、ようやく令和2年度の授業を再開することができました。改めまして、お子様の御進級、御入学おめでとうございます。4月に実施できなかった入学式も、今月に「入学を祝う会」として実施できるようにしました。感染症予防策として、限られた人数での実施となりますが、新入生や保護者の皆様にとって、思い出に残る入学を祝う会にしたいと考えております。

今年度は、小学部1年生27名、中学部1年生18名、高等部1年生42名の新入生を迎え、全体では287名、54学級となりました。昨年度より少し人数が多くなっています。

本校の目指す学校像として「児童・生徒一人一人を確かに育てる学校」を掲げています。学校教育においてお子様の可能性を最大限に伸長するべく、本校では教職員が研修に励むとともに外部専門員からの助言を活用し教員の専門性を向上させ、お子様にとって分かりやすい授業の充実を図ります。また、学校施設の整備に努め、お子様が安心して安全に学ぶ学習環境を作って参ります。

さて、新型コロナウイルスは依然、予断を許さない状況が続き、第2波、第3波の感染拡大に備え、対策を講じなければなりません。本校は来校者への手指消毒の徹底や校内の衛生管理、3つの密（密閉・密集・密接）をなるべく避ける教育活動、手洗い等の衛生指導をしっかりと行い、感染予防に努めて参ります。また今後の対応については、関係各省庁の指示及び近隣の学校等と連絡・連携を深め、適切な対応を行って参ります。

今回の「コロナ禍」では、長引く学校臨時休業によってお子様の大切な学習機会が失われました。また、9月入学の是非、パソコンやスマートフォンを活用した遠隔授業など、この危機を乗り越えるために、新たな教育の方法についても議論と実践がなされるようになりました。いろいろと課題はあるものの、各地ではパソコン等を使用した双方型のオンライン授業も始まっています。このようにコロナ禍は、子供たちや私たち教師にとっても、多様な学びの場や方法を考えるきっかけにもなりました。すでに通信制の学校はあったけれど、「通信またはオンラインでの学習、やってみたらできた!」ということを再発見しました。本校でも、情報通信技術によるオンライン学習について取り組みつつ、対面しての会話や共同学習などの活動をとおして学ぶことも重視しながら、子供にとって分かりやすい指導方法の充実に努めて参ります。

これからは、上記のようにいろんな学び方があっていい、「一人一人に応じた個別指導」がさらに重要になります。特別支援学校に求められる最大の魅力は何でしょうか、まさに「一人一人に応じたきめ細かな個別指導」です。この魅力を最大限に発揮するために、本校は研修・研究に取り組み、お子様を成長させていくこと、また従来の方にとらわれず、柔軟な発想で指導方法や教材を研究・開発していくことに挑戦していきます。そしてこのことをとおして、本校が真に就学先・入転学先選ばれ、この地域での特別な支援を必要とする子供や保護者の皆様にとって、頼りにされる中野特別支援学校でありたいと思います。私たちの学校、教職員に求められていることを自覚し、全職員一丸となって、よりよい中野特別支援学校を作って参ります。保護者の皆様、関係各機関の皆様のお力添えを、どうぞよろしくお願いいたします。